

10月1日(土)道の駅「さんさん南三陸」のオープニングセレモニーが現地にて行われました。

町では、平成27年10月に内閣府から認定を受けた「南三陸町まちなか再生計画」などに基つき、市街地の賑わい作りの重要な拠点として、志津川地区に道の駅の整備を進めてきました。防災集団移転事業に伴い土地区画整理事業が行われ、約10m高上げされた土地に地場産業の復興を進めてきました。

新たな観光・交流拠点となる「さんさん南三陸」は、震災伝承施設「南三陸311メモリアル」、観光交流施設「南三陸ポータルセンター」、交通拠点「公共交通ターミナル」、商業施設「南三陸さんさん商店街」が一帯となった道の駅となっております。県内で18番目の登録となっています。

秋葉復興大臣をはじめ、村井宮城県知事、建物の設計を行った建築家の隈研吾氏など150名を超える方々に見守られながら、道の駅のスタートを切る事ができました。

震災伝承施設 南三陸311メモリアル

東日本大震災での被災体験を伝えるとともに、防災・減災について自分ごととして考えていただくきっかけを提供するラーニング施設。エントランス、展示ギャラリー、アートゾーン、ラーニングシアター、みんなの広場、展望デッキの6つのコンテンツを備えています。

観光交流施設 南三陸ポータルセンター

一般社団法人南三陸町観光協会が運営する観光案内所。町内の魅力的なコンテンツやツアープログラムなどの案内をしています。また、荷物の一時預かりやレンタルサイクルも取り扱っています。

交通拠点 公共交通ターミナル

BRT、南三陸乗合バス、仙台直行の高速バスの発着場です。周辺の道路情報を確認できるモニター、自動販売機、24時間利用可能なトイレも完備しており、町内の地域情報なども入手可能な交通拠点です。

商業施設 南三陸さんさん商店街

サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたいというコンセプトのもと、平成24年2月25日に仮設商店街としてオープンし、平成29年3月3日に本設オープンをした商店街。南三陸杉を使用した平屋6棟に飲食店8軒、生活関連店7軒、鮮魚店5軒、菓子店3軒、理容店2軒、葬祭関連店1軒、コンビニ1軒、産直店1軒の28店舗で構成されています。



震災伝承施設登録証の受領



ご祝辞



式辞 南三陸町長 佐藤 仁 町長

当町の復興事業の集大成として、次なるステージへの一歩を踏み出す新たな拠点となる南三陸町道の駅「さんさん南三陸」をグランドオープンできることに感慨もひとしおである。あの日、多くの人々の明日が何の前触れもなく絶たれました。私もそうであるように、町民の多くがその人々の思いを引き繋ぎなければならぬと覚悟を秘めてここまでの日々を歩んできた。この経験を次の世代に繋いでいくことが私達の使命である。人は自然の一部であり、決して自然の力を越えることはできない。命の尊さや支え合い生きることの喜びを南三陸町で感じていただきたい。

講話 グランドデザイン・設計 隈研吾建築都市設計事務所 隈 研吾 様

まず「繋ぐ」ということを一番大事にした。復興というのは、そもそもそれまであった生活と現在、そして未来を繋ぐということが復興だと思う。そのため、まずは海と繋がった町にしようと考えた。さんさん商店街からこの伝承施設へ繋がる大きな軸が海へ真っすぐ繋がっている。南三陸の文化の基盤である海と町がちゃんと繋がって「賑わいのある町をもう一度つくる」をマスタープランのベースとした。海だけではなく山とも繋がり、歴史・文化・過去・未来が繋がったものにしたい。この全体の配置になった。建物の材料は南三陸杉が主要な材料となっている。



感謝のことば

西城 皇祐 様

あの日から11年。当時、中学校1年生だった私も社会人3年目となりました。当時の南三陸町の大人たちが、どんなに辛く悲しくても苦しくても私たちの前では笑顔と絶やさずに踏ん張り続けてくれた思いこそが、この町の復興の原動力になったのだと感じている。そして、すべてを失い、無力だった私たちに温かな手を差し伸べ、一歩を踏み出す勇気を与えてくれたのは、まぎれもなく全国・全世界の皆様からのご支援、たくさんのご縁でした。日本中が不安の渦の中にあつた震災直後からボランティアの皆様は、被災地での活動を開始してくれました。復旧作業の支援だけでなくお年寄りから子どもたちに寄り添った支援もいただきました。この11年の時を経て、いただいたご支援を胸に私はここに立つことができている。次の世代を担う町民を代表し、心から感謝を申し上げます。これからも私たちは前を向き、歩み続けます。



東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長 伊勢 勝巳 様

それぞれの地域において交通サービスの事業を継続することの使命を感じるとともに、地域の皆様役に立たれたことへの喜びを実感した次第である。今回一つの大きな節目を迎えたが、新たな復興のステージを迎えるにあたり今後も一緒に取り組んでいきたい。



衆議院議員 小野寺五典 様

県職員に採用された22歳の私が初めて勤務をしたのがこの南三陸町でした。あの活気があり、人の人情があり、自然豊かな南三陸町、それが今でも心に残っている。今回のこの施設は、あの町を伝えるための大切な施設でもあると思っている。



衆議院議員 安住 淳 様

多くの人達を集客するだけではなく、次の世代にあの震災の惨状と、そこから立ち上がった多くの町民の不撓の日々を常に忘れず思い出していただく駅になることは、日本でも唯一の施設となると考えている。



南三陸町議会議員 星 喜美男 様

議会としては、復興事業の集大成と位置付けているこれらの施設がしっかりと機能し、目的を達成し、自然災害の恐ろしさを未来に伝え、また、交流人口の拡大へと結びついていこう、しっかりと見守っていききたい。



宮城県知事 村井 嘉浩 様

「南三陸311メモリアル」は、教育旅行や復興ツーリズムの新たな中核になるものと大変期待している。県内各地の伝承施設や語り部活動などの情報を一元的に発信し、震災伝承及び地域の活性化に繋げていきたい。



復興大臣 秋葉 賢也 様

道の駅「さんさん南三陸」のグランドオープンをきっかけに、たくさんの方々実際に南三陸町を訪れ、震災の経験や記憶に触れ、海の幸、山の幸を楽しみ、新たな交流が創造されていくことを願っている。